

令和3年度EIIRISプロジェクト研究成果報告会 2022年3月1日

マイクロスケールEHDポンプ特性の解明



プロジェクトメンバー: 機械工学系 岡田光太朗、西川原 理仁、柳田 秀記、横山 博史



iber

500

EllRISの微細集積回路技術(MEMS)によって、<u>電極間距離</u>が数百µmから数µm以下の電極を製作し、マイ クロスケールにおけるEHDポンプ特性を調査する。

① ガラス基板にフォトリソグラフィによって電極を形成する ② PDMS樹脂を鋳型に流し込み、流路カバーを形成する PDMS流路カバーをプラズマ処理してガラス基板と結合させることによりシールする 3

(4) ポンプと管路の接続には、1/8inchのチューブを用いる

電極寸法·実験方法

		L1	L2	L3	L4	pai
		(narrow)	(gap)	(wide)	(pair pitch)	nun
	Ref. (µm)	127	127	381	1270)
	Ratio(-)	1	1	3	10)
	5 µm	5	5	15	50)
	50 µm	50	50	150	500)
	500 μm	500	500	1500	5000	

Fig. 3 Schematic of electrode dimensions and electrical connections M.R. Pearson, J. Seyed-Yagoobi, Experimental Study of Linear and Radial Two-Phase Heat Transport Devices Driven by Electrohydrodynamic Conduction

Pumping, Journal of Heat Transfer, 137 (2014) 022901

1/8inch tube

フォトリソグラフィによって作製

電極間距離:これまでの最小 流路高さ:ギャップの4倍(Ref.*にならって) 長さ、幅:マスク製作の照射領域の制約より

実際にポンプに電圧を印加し、動作を確認すると共に、印加 電圧,電流と発生圧力の関係を調査する。

実験内容

①ポンプ内をフッ素系冷媒であるVertrel XFで満たす ②電極に100~300Vを印加

実験結果



実験結果

- 電極寸法をマイクロ化することで発生圧力は大きくなる ⇒電極対数の増大により、ポンプ効率が向上した可能性
- 流路高さは低いほど発生圧力は大きくなる ⇒クーロンカが流路全体にわたって作用

Electrode flow direction

Displacement

h

③液面変位差 h よりポンプによる発生圧力を、 データロガーにより電圧、電流を測定する。

発生圧カの数値解析結果

COMSOLを用いて電気流体解析を行い、得られた発生圧力を無次元数Coを用いて整理した.



- C_0 はConduction number と呼ばれ、イオンが電極間を移動するのにかかる時間とイオンが再結合する 時間の比である。
- βは解離傾向を表す無次元数であり、大きいほど解離イオンが生じやすくなる。

電荷密度分布





